

豊議議第543号  
令和4年(2022年)12月15日

豊中市議会議長  
花井慶太様

市民福祉常任委員会

委員長	吉田正弘
副委員長	藤田浩史
委員	石原準司
委員	久場良孝
委員	大石利彦
委員	松岡信道
委員	出口文子
委員	井本博一
委員	大野妙子

市民福祉常任委員会視察調査報告書

次のとおり、視察調査の結果を報告致します。

記

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 1. 日時                  | ○ 令和4年10月6日(木)   |
| 2. 調査都市<br>及び調査内容      | ○ 愛知県蒲郡市<br>・中学生ピロリ菌検査事業<br>・オンライン診療服薬指導実証実験、<br>オンライン保健事業 |
| 3. 調査結果<br>の概要及び<br>意見 | ○ 別紙   |

## 調査結果の概要及び意見

## I. 愛知県蒲郡市：中学生ピロリ菌検査事業

## (1) 視察の目的

大阪府の胃がん検診が全国で最下位との現状を踏まえ、本市においても検診率向上に向け、様々な取組を実施している。また、本市の中学校では、市立豊中病院の医師による出前授業として、がん教育を学ぶ機会を増やしている。蒲郡市では、比較的感染率の低い中学生時に検査を行い、ピロリ菌の除菌治療を実施されており、それらの事例を参考にすることを目的とする。

## (2) 中学生のピロリ菌検査事業の取組の経緯・内容等

## 1. 取組の背景・経緯

蒲郡市では、「健康がまごおり21第2次計画」の見直しに伴い、平成23年度に様々なデータを調べたところ、メタボ該当者割合が愛知県内で1位、さらに特定保健指導終了率が県内最下位だったことなどから、平成25年度から健康づくりが市の重点施策となり、全庁的な健康づくりの取組、市民の健康づくり事業を実施してきた。

また、市民のがん検診受診率向上のための様々な取組の一環として、毎年度がんを知るセミナーを実施しており、平成28年度はピロリ菌と胃がんの関係の内容であった。その中で、胃がんの発がん因子として認定されているピロリ菌が、成人と中学生との感染状況の関係から、中学生時に早期発見・早期除菌することにより除菌後の胃がん発生率をほぼゼロにすることが可能となることがわかった。

## 2. 取組内容

中学生ピロリ菌検査事業として、生徒・家庭を取り巻く、行政（健康推進課）、市教育委員会、医師会、薬剤師会が連携して実施。

蒲郡市で現在行っている中学一年生の学校健診時の血液検査に、採血量も増えず生徒の負担も少ないため、ピロリ菌検査検査項目に追加して実施。市外在籍の中学一年生には、夏休みに健診センターで検査ができるよう手配。

毎年約700名が対象となり、一次検査としてピロリ菌の抗体価で判定し、結果を市から自宅に個別通知する。一次検査の陽性者（約4%）には、二次検査として尿素呼気試験で精度の高いピロリ菌陽性判定を行う。二次試験でも陽性であった場合（10名前後）には、除菌治療として一週間の内服治療を行い、2～3か月後に再度尿素呼気試験により陰性の確認を行う。

検査・除菌治療の費用は全て公費負担（年間約2百万円）とし、生徒の費用負担はない。

### 3. 実績・今後の取組

学校健診と同時実施することで、高い受診率となっている。内服治療をしても数名は除菌できなかった生徒がおり、その場合は専門医から説明を受け、成人後に再度検査し除菌を行うかを考えていくこととなる。

ピロリ菌検査をきっかけに、学校の意識の変化でがん教育につながり、学校や生徒及びその保護者の意識が高まった。また、生徒が陽性であった場合は、その保護者も陽性である可能性が高いため、そこからがん検診受診率の向上につながっている。

体重が40kg未満だと除菌治療の対象外となるため、陽性であってもすぐに治療を始められない場合もある。外国籍の生徒に対しても、言葉の壁で検査や治療が上手くいかなかった事例もあり、今後の課題と考えている。

今後もがん教育を推進していき、胃がんの撲滅を長期的視野に入れ、ピロリ菌検査の二次検査受診率100%に向けた取組や、二次検査で陽性判定を受けた除菌治療保留者への治療勧奨と、ピロリ菌保有の可能性のある保護者・家族への除菌勧奨を進めていく。

#### (3) 各委員の所感

- ピロリ菌検査事業として、中学校1年時の集団検診時に一次検査を実施していることに、本市での実現に向け可能性を感じました。特に教育委員会が本事業の重要性を理解して積極的な取組が必要と感じました。特にピロリ菌陽性検査に終わらず、全ての陽性判定者が除菌治療を完了するまで丁寧な対応が必要と感じました。
- 胃がんの主原因となるピロリ菌検査について、市内在住・在学の全中学一年生に実施しているということであるが、がんの中でも罹患数の多い胃がんに対し早期に検査を実施し、除菌治療まで市の負担で行っていただけの施策については、本市においても大いに参考になるものであった。財源の問題もあるが、本市なりの実施法を模索していくべきと感じた。
- 蒲郡市の中学生ピロリ菌検査事業を学ばせていただき、市で全中学生を対象に学校健診時に合わせた一次検査の実施で生徒の負担を軽減でき、高い検診率にもつながること、陽性の場合には必ず公費で二次検査、除菌治療を実施して、陰性の確認まで掌握することが重要であること、ピロリ菌検査をきっかけに、がん教育をする機会ができ、学校や生徒及び保護者の意識が高まったことがわかり、本市でも実施を検討する上で参考になりました。
- 視察に行き始めて蒲郡市が中学生にピロリ菌検査をしていることを知りました。私もコロナ感染症が流行してからストレスにより胃の状態が悪くな

(別紙)

り、胃カメラ検査のついでに初めてピロリ菌検査も行いました。ですが視察に行くまではピロリ菌と胃がんの関係性を知りませんでした。感染経路も経口からというのも驚きました。しかも除菌成功してからの胃がん発生率はほぼゼロとのことでした。素晴らしい事業で豊中市でも是非行っていただきたいと思いました。

- 中学一年生の学校健診に合わせてピロリ菌検査を実施し除菌治療を行っている。中学生の頃から、がん教育の推進に対して当事者として参加していただいております、医療・健康面での成果、がん教育の面での効果など、注目すべき事業であると感じた。蒲郡市と豊中市では、人口規模に大きな違いがあるため、豊中市でも同様の政策を進めることに対しては、大きな障壁があると感じるが、健康政策、教育政策としての実施については、検討の余地があると感じた。
- ピロリ菌検査については、費用対効果も大きく、財源的にも本市において実施可能であり、ぜひとも推進すべきと感じました。行政と学校との連携がなによりも肝であると感じたので、保護者の理解とともに、子どもが将来の健康を意識することは、予防医学の見地からも大変重要な啓発になると感じました。
- ピロリ菌検査と除菌治療は大変効果があると思った。中学一年の健診項目に追加で、追加採血の苦痛や負担がなく、学校健診と同時の実施で、高い受診率になるのも良く、胃がん予防で市民の命を救える効果があることから、豊中市でも導入していただきたい。
- 他の血液検査と同時に実施することで、生徒の身体的な負担は増えることなく実施できることや、中学生の段階でピロリ菌を除去することで胃がんリスクがほぼ無くなるということで、将来的に胃がん発症率が低下することに繋がり、医療費抑制効果もある事業であり、参考とさせていただける取組となった。
- 中学生からのピロリ菌検査は大変に有効だと思う。医師会や教育委員会、特に学校健診時に血液検査を追加され実施されている。本市においても大事なことであるとその必要性を認識されていますのでまた提案したい。

## Ⅱ. 愛知県蒲郡市：オンライン診療服薬指導実証実験、オンライン保健事業

### (1) 視察の目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、医療現場では受診控え、院内感染リスクの増加への懸念が高まっている。蒲郡市では、コロナ禍における感染拡大防止及び診療体制整備の必要性からオンラインを活用した診療や服薬指導、保健事業の実証実験を実施され、それらの事例を参考にすることを目的とする。

### (2) オンライン診療服薬指導実証実験、オンライン保健事業の取組の経緯・内容等

#### 1. 取組の背景・経緯

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、医療現場では受診控えや院内感染リスクの高まりへの懸念が生じた。また、保健事業では、感染レベルが上がり、対面での事業がほぼ中止となっていた。それらのことを踏まえ、コロナ禍における感染拡大防止及び診療体制整備の必要性を検討し、オンラインを活用した診療や服薬指導、保健事業の実施について、環境や地域医療体制の構築及びオンラインの有効性を探ることを目的に、実証検証を実施することとなった。

#### 2. 取組内容

実証検証期間は、令和2年11月1日から令和3年3月31日で、蒲郡市民病院・蒲郡市医師会・蒲郡市薬剤師会・中部テレコミュニケーション株式会社の4者が連携協定を締結し、蒲郡市とともに実施主体となった。

実施内容は、①オンライン診療・服薬指導等についての普及啓発、②診療及び服薬・保健指導等におけるオンラインを導入した取組の実施、③実証検証ワーキング会議による関係機関での情報交換と事業の検証及び報告書の作成を行うこととした。

実際には、オンライン診療・服薬指導の実証実験として、7医師会で24人、1市民病院で9人、5薬剤師会で5人に対し、内科・皮膚科・整形外科にて、予約、問診、診療、服薬指導や相談、会議等で活用された。また、診療・服薬以外でも市民病院でのオンライン面接や施設間連携、休日急病診療所でのウェブ問診や介護施設においてもオンラインが活用された。

オンライン保健事業の実証実験としては、市民病院での特定保健指導や保健センターでの随時の健康相談、母子や高齢者関係の教室を行い、また YouTube による講演会等も実施した。

### 3. 実績・今後の取組

実証実験の結果、オンライン診療・服薬指導では、医療機関において感染予防として有効であり、市民には電話相談とは違い主治医の顔を見て相談できる安心感が成果としてあった。一方で、医療機関の職員や受診する高齢者がオンラインに不得手なこともあり、準備や診察に時間がかかることやオンライン診療の希望が少ないこと、また医療報酬体系や診療科によっては不向きといった課題が確認できた。

オンライン保健事業の成果としては、40～50歳代の特定保健指導は、時間短縮に有効で利用者も多かったこと、外出せず相談ができ顔を見られるためコミュニケーションが取りやすい点があった。課題としては、母子関係では、子どもの発達相談や検査は対面でないと難しいことや、すぐに相談ができないため利用者も少なかった点や、交流目的の教室には不向きであったこと、また、高齢者関係では、操作に不慣れで希望しない人が多かった点などが挙げられた。

総合的には、今回の実証実験を通じ、オンラインに対する関心が高まり関係機関において意識づけになったこと、活用しやすい事業が明確となり、感染対策としてのオンライン活用の可能性が広がったが、診療報酬体系や環境整備などのハード面の課題も見えた。今後も引き続き、市民が活用しやすいオンライン診療等の体制の構築を進め、関係機関で取組を進めていく。

#### (3) 各委員の所感

- 感染症拡大時は、全ての機関で大変厳しい状況下で対応する必要があります。感染状況が落ち着いている平時にこそ、多くの関連機関がオンラインを活用した診療や服薬指導の取組を実施できる環境を整備することが必要と感じました。特に高齢者への実施に向けた対策を引き続き検証する必要性を感じました。
- オンライン診療については、様々な診療・服薬指導の流れの中で対面診療と上手く組み合わせることにより、より診療体制の充実を図れる良い取組だと感じた。対象の多くは高齢者となるので、タブレットやスマートフォンなどを使いこなせるかなど課題はあるものの、今後少子高齢化がますます進行するのは確実であり、医療体制の充実を求めらる中で1つの有効な手段とはなりえると思う。
- 蒲郡市でのオンライン実証実験を学ばせていただき、オンラインの活用については、感染予防として、つながりやすさなどでの可能性があることが確認できましたが、患者や医療従事者側での課題や、医療機関等で実施するための環境の構築や国の診療報酬制度が整備されることが必要になることなど課題が多いこともわかり、本市で導入の検討をする上での参考になりました。

(別紙)

- 本市では市立豊中病院は箕面市との境に位置し南部地域から非常にアクセスしにくい課題があります。本市でもオンライン診療の実証実験を行っていただき、どの様なメリット、デメリットがあるかを確認していただきたいと思いました。初めての視察でしたが非常に勉強になり今後役に立っていきます。
- 実証検証事業では、オンライン診療服薬指導の実施に向けた課題整理なども含まれており、現在のところ、診療科目によってそれぞれ課題が残ることが理解できた。問診だけで診療を行うこともあるが、医師会、市民病院、薬剤師会、それぞれに課題が残り、完全実施は難しいと考えられるが、生活習慣病などについては対応可能であると思われる。
- オンライン診療については、今後のパンデミックを想定する上で重要な取組になると考えています。高齢者のデジタルディバイド、医療機関の体制づくり、支払い不履行というモラルの問題まで、種々の課題はあるものの、取り組まなければならないことだと改めて認識しました。原則的には国によって先導されていくものだと思うが、自治体が三師会と日常的にコミュニケーションはかることが大切であるとわかった。
- 新型コロナ感染拡大防止のため、オンラインは必要な手法ではありますが、耳鼻科、眼科、歯科など直接観察が必要な診療はオンラインには適していないとの説明に納得した。服薬指導は複数の病気でいろいろな薬を服薬している高齢者には難しいと思った。オンラインで全ては対応できない、必要な部署にはオンラインを導入して、対面での対応することが安心安全の医療の確保に繋がる。
- 全ての診療科で実施するには現状難しい点があると理解できた。その中でも、急性疾患ではなく慢性疾患における経過観察などにおいては、かかりつけ医との連携もできるのであればメリットがあるかと思いました。その辺りから進めることで、患者様やご家族の QOL 向上に繋がる取組として今後の参考になった。
- まず実証実験され成果及び課題を検証されたことに大変に評価したいと思います。オンラインの活用については不向きな医療機関やオンライン診療では算定できない指導料あるいは、診療費の支払いなどまだまだ課題は多く残っていますが、今日的要請の流れもあり対面、オンラインをうまく組み合わせより効果的に進めば良いと感じた。また国においてその環境整備をしっかりとしていただきたいと思いますので国との連携の重要性を感じた。